

皆さんの意見をまとめました ～こども園保護者～

※小・中学校保護者の皆さんの意見については、次号で紹介
します。



意見交換の様子

統合賛成

■ 出生数の少なさに衝撃

- ・想像以上の少子化に危機感を抱いた。知らない保護者が多いのもっと情報発信を。
- ・保護者ももっと関心を持って意見を出していくべき。
- ・中学校の統合は避けられないのでは。

■ 子どもたちの未来を一番に

- ・子どもたちの心をケアする体制づくりや交流の機会を増やしてほしい。
- ・『子どもファースト』の考えを持つべき。
- ・子どもたちの未来のために、広い世界で学校生活を送ってほしい。
- ・財政面の課題も、統合により削減できる経費もある。メリット・デメリットの情報発信をしてほしい。
- ・このままでは小学校も心配。

■ これから子育てする若い世代の意見を大切にしてほしい

■ 部活動の選択肢が多い学校を！

どちらともいえない

■ 早く方向性を決めてほしい

- ・人口増や移住者の増、企業誘致などの対策や効果に期待して、「もしかして」や「かもしれない」「たら、れば」で手遅れになる前に、方向性を決めてほしい。
- ・小学校はそのまま、中学校は統合を。

■ 多可町独自の教育を！

- ・田舎ならではの自然豊かな環境を生かした人間力が身につく教育を。
- ・中学校で、40人クラスを2クラスに分けるなど、町独自の教育を。

■ 子どもたちにとって一番良い選択を

- ・小さな学校はデメリットばかりではなく、先生の目が行き届きやすくなるメリットがある。どちらも一長一短があると思うが、子どもたちにとって一番良い選択をしてほしい。



令和2年度の町内出生数

66人

※令和9年度 小学校入学
令和15年度 中学校入学の子ども

町内全体で2クラス
しか編制できません。

■ クラス替えは必要！

- ・クラス間で競争、先生も子どもも人間関係のバランスがとりやすい。
- ・仲が良いときは良いが、子どもたちの中にある序列を変えるにはクラス替えが必要。

■ 免許外指導をなくし、学習の保障を！

- ・先生が増えると子どもたちへの目が行き届きやすい。
- ・専門の先生を全教科確保してほしい。
- ・都市部と教育格差が生まれてはいけない。
- ・学校は勉強するところ。先生の人数を増やし、先生の負担を減らし、子どもと向き合える時間を増やすことが必要。

子育て世代への支援を

- ※子育て世代からいただいた意見を紹介します。
- ・手当や補助金の拡充を。
 - ・町営住宅の所得制限を緩和してほしい。
 - ・空き家をもっと活用してほしい。
 - ・土地(田んぼや畑)に家を建てる場合、制限があったり手続きに時間がかかる。

【今後の予定】

■ 住民説明会

※どなたでも参加できます。

8月20日(金) 午後 7時～ 加美プラザ

8月21日(土) 午後 2時～ 八千代プラザ

8月22日(日) 午前10時～ 中プラザ

※事前予約の必要はありません。

※約30分の説明後、質疑応答を行います。

※マスクの着用をお願いします。

月刊

町政 P i C O U P

地域の学校教育のあり方を考える会

■ 問合せ 教育総務課 TEL (32) 2384



みんなで
考えよう
学校の未来

先生の数
はどうなるの？

部活は
どうなるの？

子どもたちにとって
必要なことってなに？

住民説明会を順次開催しています

「クラス替えができない」「部活動の選択肢が少なくなっている」ことや、令和2年度に生まれた子どもの数が66人だったことなど、児童生徒、教職員、学校を取り巻く現状や将来への課題を、多くの皆さんに知っていただく必要があるため、住民説明会を開催しています。

保護者の皆さんは、「子どもたちの数は少ないと感じていたが、ここまでとは…」という驚きと危機感を持たれ、活発な意見交換が行われました。

これらの意見は、今後地域の学校教育のあり方を考える会で紹介し、議論を深めていきます。

- これまで14会場で説明会を実施しました。
- 6/8 子育てふれあいセンター
- 6/16～17 加美区区長会 6/21 中区こども園
- 6/22 八千代区こども園 6/24 加美区こども園
- 6/30 八千代区区長会 7/2 中区区長会
- 7/2 加美中学校 7/6 杉原谷小学校
- 7/7 中町中学校 7/13 中町北小学校
- 7/16 八千代中学校 7/28 八千代小学校
- ※中町南・松井小学校は動画視聴による説明



おしえて！

小規模校のメリット・デメリット



小規模校とは？

- ・小学校 6～11学級
クラス替えができない学年が発生
- ・中学校 3～11学級
- ※多可町の小中学校はすべて小規模校です。

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人に目が行きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。 ・学校行事や部活動などにおいて、子ども一人一人の活躍の機会を確保しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動などの集団教育活動に制約が生じやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ・部活動などが限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ・子ども一人一人に目が行きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えができないため、人間関係や相互の評価などが固定化しやすい。 ・集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ・切磋琢磨する機会などが少なくなりやすい。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ・学校が一体となって活動しやすい。 ・保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いにくい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導などについての相談・研究・協力・切磋琢磨などが行いにくい。

※文科省 中央教育審議会資料より